

# Setting Up the PDS

2003-2004 Winter Edition

PDS 7.2 on Windows 2000

2003-10-22

Windows 2000 (英語版/日本語版)	5.0
Windows 2000 Service Pack	4
Acrobat (Adobe) Reader	5.0/6.0
MicroStation/J (英語版)	07.01.04.16
IPLLOT (Server, Client)	10.02
IPLLOT Driver Pack	3.0
Oracle9i	9.2.0.1.0
RISORADS	05.07.00.00
RIS Client	05.07.00.00
NTBATCH	05.00.00.24
PD_LICE	7.2.0/7.2.1
PDS3D	7.2
PD_ISOGEN	7.2
PDS2D	7.0
SDNF Import	3.0
SmartPlant Review	5.0
SPR Publisher	5.0
SmartSketch (英語版)	4.0
Pelican Forge SupportModeler	7.2.3

## **1 Windows 2000 のインストール**

Windows 2000 (Professional, Server)本体をインストールする。なお、Windows 2000 がマシンにプリインストールされている場合や、マシン付属のリカバリ CD を使用する場合等には、手順が異なることがある。

### **1-1 地域の設定**

Windows 2000 日本語版の場合、“**地域**”ダイアログボックスの“**カスタマイズ**”ボタンにより、“**現在のユーザー設定**”として“**ロケール**”を“**英語(U.S.)**”に設定する。

### **1-2 ライセンスモードの選択**

Windows 2000 Server の場合、ライセンスモード(**Per Server:同時使用ユーザー数 / Per Seat:接続クライアント数**)の選択を行う。**Per Server (同時使用ユーザー数)**を選択した場合には、クライアントアクセスライセンス(CAL)数(OS 付属分+追加購入分)の入力を行う。

### **1-3 Windows 2000 コンポーネントの選択**

Windows 2000 Server の場合、**Windows 2000 Components (Windows 2000 コンポーネント)**ダイアログボックスで、インストールするコンポーネントの選択を行う。**Internet Information Services (IIS: インターネットインフォメーションサービス)**のインストールを行わない場合、このダイアログボックスで指定を行う。

### **1-4 ネットワークの設定**

**Networking Settings (ネットワークの設定)**ダイアログボックスの **Custom settings (カスタム設定)**により、ネットワークの設定(IP アドレス、ワークグループ/ドメイン名の指定等)を行う。

## **2 Windows 2000 の設定**

Windows 2000 本体のインストール終了後、以下の設定を行う。

### **2-1 Network Identification Wizard (ネットワーク識別ウィザード)**

Windows 2000 Professional の場合、初めてログオンを行う前に表示される **Network Identification Wizard (ネットワーク識別ウィザード)**で、**Users must enter a user name ... (ユーザーはこのコンピュータを使用するとき ...)**オプションを選択する。

### **2-2 Num Lock**

**Administrator** としてログオンを行う。キーボードの **Num Lock** を ON にする。

### **2-3 Getting Started (Windows 2000 の紹介)ダイアログボックスの設定**

Windows 2000 Professional の場合、**Getting Started with Windows 2000 (Windows 2000 の紹介)**ダイアログボックスの **Show this screen... (スタートアップ時に...)**オプションを OFF にし、**Exit (終了)**ボタンを選択する。

### **2-4 Configure Your Server (Windows 2000 サーバーの構成)ダイアログボックスの設定**

Windows 2000 Server の場合、**Windows 2000 Configure Your Server (Windows 2000 サーバーの構成)**ダイアログボックスの **I will configure this server later. (このサーバーを後で構成します)**オプションを選択し、**Next (次へ)**を選択する。**Show this screen at startup (起動時に、この画面を表示する)**オプションを OFF にする。

### **2-5 Active Directory の設定**

Windows 2000 Server で、新しいドメインを作成する場合、または既存のドメインのバックアップドメインコントローラとする場合には、上記の **Windows 2000 Configure Your Server (Windows 2000 サーバーの構成)**ダイアログボックス左側の **Active Directory** を選択し、設定を行う。上記のダイアログボックスは、**Administrative Tools (管理ツール)**の **Configure Your Server (サーバーの構成)**から起動することができる。

### **2-6 Service Pack 4 のインストール**

Windows 2000 Service Pack 4 のインストールを行う。

### **2-7 パーティションのフォーマット**

**C:**ドライブ以外に **D:**等のパーティションを作成した場合はフォーマットを行う。

## 2-8 ドライバのインストール

グラフィック、マウス等のドライバをインストールする。

## 2-9 地域のオプション

Windows 2000 日本語版のインストール時に“地域”の設定を行うことができなかった場合、コントロールパネルの“地域のオプション”で、“現在のユーザー設定”として“ロケール”を“英語(U.S.)”に設定する。

## 2-10 Show window contents... (ドラッグ中に...)オプションの設定

Display (画面)の Properties (プロパティ)を表示し、Effects (効果)タブの Show window contents while dragging (ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する)オプションを OFF にする。

## 2-11 Event Viewer (イベントビューア)の設定

My Computer (マイコンピュータ)の Manage (管理)を選択し、Event Viewer (イベントビューア)の各ログの When maximum log size is reached (ログサイズが最大値に達したときの動作)を、Overwrite Events as Needed (必要に応じてイベントを上書きする)に設定する。

## 2-12 Internet Explorer (インターネットエクスプローラ)の設定

インターネット接続方法(プロキシ等)の設定を行う。また、Use HTTP 1.1 through proxy connections (プロキシ接続で HTTP 1.1 を使用する)オプションを ON にする。

## 2-13 クライアントアクセスライセンス(CAL)の登録

Windows 2000 Server で、ライセンスモードが Per Seat (接続クライアント数)の場合、Administrative Tools (管理ツール)の Licensing (ライセンス発行)を起動し、クライアントアクセスライセンス(OS 付属分 + 追加購入分)の登録を行う。なお、Product (製品)の指定(Microsoft BackOffice / Windows Server)に注意する。

### **3 ソフトウェアインストール前の設定**

アプリケーションソフトウェアをインストールする前に、以下の設定を行う。

#### **3-1 レジストリ DisableUNCCheck の追加**

**HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Command Processor** に対して、以下の値を追加する。

**DisableUNCCheck: REG\_DWORD: 0x1**

#### **3-2 レジストリ winreg の削除**

ファイルサーバとするマシンでは、以下のキーを削除する。

**HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\  
CurrentControlSet\Control\SecurePipeServers\winreg**

#### **3-3 レジストリ DisableDHCPMediaSense の追加**

**HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameters** に対して、以下の値を追加する。

**DisableDHCPMediaSense: REG\_DWORD: 0x1**

#### **3-4 レジストリ Intergraph の追加**

**HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE** に対して、以下のキーを追加する。

**Intergraph: クラス指定なし**

#### **3-5 レジストリ Intergraph の Permissions (アクセス許可)の設定**

上記で作成した **Intergraph** キーに対して、**Everyone – Full Control (フルコントロール)** の **Permissions (アクセス許可)**を追加する。

#### **3-6 レジストリ Common の追加**

上記で作成した **Intergraph** キーに対して、以下の値を追加する。

**Common: REG\_SZ: C:\WIN32APP\INGR\SHARE**

### 3-7 環境変数 TEMP/TMP の設定

C:\TEMP フォルダを作成し、Everyone – Full Control (フルコントロール)の Permissions (アクセス許可)を設定する。Administrator のユーザー環境変数 TEMP および TMP を削除し、システム環境変数 TEMP および TMP に対して、以下の値を設定する。

**%SystemDrive%\TEMP**

### 3-8 マシンの再起動

マシンを再起動する。

## 4 アプリケーションソフトウェアのインストール

各アプリケーションソフトウェアは、以下の順序でインストールを行う。

- 1) Acrobat (Adobe) Reader
- 2) MicroStation (PDS マシン/ISOGEN マシン)
- 3) IPLOT Server (プロットサーバ)
- 4) IPLOT Driver Pack (プロットサーバ)
- 5) IPLOT Client (PDS マシン/ISOGEN マシン)
- 6) Oracle (データベースサーバ)
- 7) RISORADS (データベースサーバ)
- 8) RIS Client (PDS マシン/ISOGEN マシン)
- 9) NTBATCH (PDS マシン/ISOGEN マシン)
- 10) PD\_LICE (ライセンスサーバ/PDS マシン/ISOGEN マシン)
- 11) PDS3D (PDS マシン/ISOGEN マシン)
- 12) PD\_ISOGEN (ISOGEN マシン)
- 13) PDS2D (PDS2D マシン)
- 14) その他のアプリケーション

### 4-1 Acrobat (Adobe) Reader

Acrobat Reader 5.0 または Adobe Reader 6.0 を、デフォルトの設定でインストールする。

### 4-2 MicroStation

**Typical** または **Complete** により、MicroStation/J のインストールを行う。

### 4-3 IPLOT (Server, Driver Pack, Client)

各マシンの構成に合わせて IPLOT (Server, Driver Pack, Client)のインストールを行う。  
IPLOT Server および Client の両方を 1 台のマシンに対してインストールする場合には、  
Server, Client の順でインストールを行う。

#### 4-4 Oracle

データベースサーバに対して Oracle9i のインストールを行う。

“ Oracle9i Database 9.2.0.1.0 ”, “ Custom ” を選択し、以下のコンポーネントをインストールする。

- Oracle9i Database 9.2.0.1.0
  - Oracle9i 9.2.0.1.0
  - Enterprise Edition Options 9.2.0.1.0
  - Oracle Net Services 9.2.0.1.0
  - Oracle Enterprise Manager Products 9.2.0.1.0
  - Oracle9i Development Kit 9.2.0.1.0
  - Oracle9i Windows Documentation 9.2.0.1.0
  - Oracle HTTP Server 9.2.0.1.0
  - Oracle Windows Interfaces 9.2.0.1.0
  - Oracle Transparent Gateways 9.2.0.1.0
  - iSQL\*Plus 9.2.0.1.0
  - Oracle JDBC/OCI Interfaces 9.2.0.1.0

Oracle Universal Installer のインストール先を以下のように変更する。

D:\Oracle\oui

Java Runtime Environment のインストール先を以下のように変更する。

D:\Oracle\jre\1.3.1

D:\Oracle\jre\1.1.8

**Create Database** に対して **No** を選択する。

**Perform typical configuration** オプションとして **OFF** を選択する。

**Directory Usage Configuration** ダイアログボックスで **No** を選択する。

**Oracle Net Listener** の設定を行う。

**Naming Methods Configuration** ダイアログボックスに対して **No** を選択する。

Oracle ソフトウェアのインストール終了後、**D:\Oracle\Ora92** フォルダに対して **Everyone – Full Control (フルコントロール)**のパーミッションを追加する。

#### 4-5 RISORADS

データベースサーバに対して、RISORADS のインストールを行う。Setup Type として **Typical** を選択する。



#### 4-6 RIS Client

PDS マシン/ISOGEN マシンに対して、PDS 7.2 の CD に含まれる risshare フォルダから、RIS Client のインストールを行う。Setup Type として **Typical** を選択する。なお、データベースサーバとしても利用されるマシンで RISORADS がインストールされている場合には、RIS Client のインストールは行わない。

#### 4-7 NTBATCH

インストール先フォルダを **C:\WIN32APP\INGR\NTBATCH** に設定する。

**Do you want jobs to have access to the desktop?** に対し **Yes**、

**Do you want to run all job as the same user?** に対し **No** を選択する。

#### 4-8 PD\_LICE

Pelican Forge SupportModeler 7.2.3 を使用する場合には、ライセンスサーバ/クライアント共に PD\_LICE 07.02.01.00 のインストールを行う。

#### 4-9 PDS3D

PDS3D の各モジュールをインストールする。上記で PD\_LICE 07.02.01.00 のインストールを行った場合には、PD\_LICE モジュール(07.02.00.15)は選択しない。

#### 4-10 PD\_ISOGEN

ISOGEN の処理を行うマシンでは、上記の PDS3D のインストールを行った後、PD\_ISOGEN のインストールを行う。PD\_LICE 07.02.01.00 のインストールを行った場合には、PD\_LICE モジュール(07.02.00.15)は選択しない。

#### 4-11 PDS2D

PDS2D を使用する場合には、Intergraph/MUTOH の技術サポート Web から Version 07.00.00.18 をダウンロードしてインストールを行う。

#### 4-12 その他

各マシンの構成に合わせて、SDNF Import, SmartPlant Review, SPR Publisher, SmartSketch, Pelican Forge SupportModeler 等のソフトウェアをインストールする。

#### 4-13 マシンの再起動

全てのソフトウェアをインストールした後、マシンの再起動を行う。

## 5 ソフトウェアインストール後の設定

全てのアプリケーションソフトウェアをインストールした後、以下の設定を行う。

### 5-1 環境変数 NQS\_job の定義

以下のように、システム環境変数を定義する。

```
NQS_job = 1
```

### 5-2 環境変数 Path の設定

環境変数 **Path** の定義に、空白文字を含むフォルダ名や、ダブルクォーテーションマーク (") で囲まれたフォルダ名が含まれていれば削除する。

### 5-3 RIS の設定

Windows 2000 日本語版では、RIS で使用する言語を **English** に設定しておく必要がある。  
**C:\win32appl\mgr\share\ris05.xx\config\langs** ファイルの読み取り専用属性を OFF に設定し、以下のように編集する。

(編集前)

```
3 |japanese          |japanese    |0x0411|932|Japanese
```

(編集後)

```
3 |english           |english     |0x0411|932|Japanese
```

### 5-4 PDS Queue の作成

**PDS Queue** を起動し、**Batch Queue** を作成する。ISOGEN のバッチ処理を他のマシンで実行する場合には、PD\_ISO 関連の Queue を Pipe Queue とする。各 Queue の Properties の **Disable Job Inflow while Running Job** オプションが ON になる不具合に対応するため、**PDS Queue** を再度起動し、**Enable all for configuration** オプションにより各 Queue の再作成を行う。

### 5-5 NTBATCH の Account Mapping

**Batch Manager** を起動し、\* \* = **ドメイン名\Administrator** のように Account Mapping の定義を行う。

### 5-6 Bentley ライセンス

MicroStation, IPLOT 等のライセンスが発行されている場合にはインストールを行う。

### 5-7 PDS ライセンス

ライセンスサーバに対してサーバライセンスのインストール(**pdlice -a**)を行う。各クライアントに対してライセンスサーバの登録(**pdlice -j**)を行う。ライセンスサーバ上でも PDS を動作させる場合には、同様にライセンスサーバの登録を行う。

### 5-8 SetFormScale

デュアルモニタのマシンの場合は、PDS 2D Tools の **SetFormScale** により、**Form Scale Factors** を **X = 0.5, Y = 0.5** に設定する。

### 5-9 FWP Envelope Builder の更新

FWP 用 Envelope Builder プログラムの更新を行う。**Command Prompt (コマンドプロンプト)**上で **C:\win32appl\ingr\fwplus\bin** ディレクトリに移動し、以下のコマンドを実行する。

```
clashupd c:\win32appl\ingr\pdclash\bin
```

### 5-10 プリンタ/プロッタ

IPlot サーバでは、使用するプリンタ/プロッタに合わせて、共有プリンタの作成を行う。また、**Printing Preferences (印刷設定)**や **Properties (プロパティ)**等の設定を行う。

### 5-11 ユーザプロファイルのコピー

**My Computer (マイコンピュータ)**の **Properties (プロパティ)**を表示し、**User Profiles (ユーザープロファイル)**タブを選択する。**Administrator** のプロファイルを選択して **Copy To (コピー先)**ボタンを選択する。**C:\Documents and Settings\Default User** をコピー先として指定し、**Permitted to use (使用を許可するユーザー/グループ)**に **Everyone** を指定する。

### 5-12 マシンの再起動

全ての設定作業を行った後、動作確認を開始する前にマシンの再起動を行う。